

## 第2回篠山市総合教育会議 議事録

### 1. 日 時

平成27年8月31日（月） 午後15時00分～16時45分

### 2. 場 所

市役所本庁舎4階 401・402会議室

### 3. 会議に出席した構成員

市 長	酒井 隆明
教育委員会	
教 育 長	前川 修哉
教育委員	酒井 克典
教育委員	小澤 千秋
教育委員	中村 貴子
教育委員	垣内 敬造

### 4. 構成員以外の出席者

政 策 部 長	堀井 宏之
総 務 部 長	植村 富明
教 育 部 長	上田 英樹

### 5. 事務局出席者（教育委員会事務局）

次 長	細見 博文
教育総務課	
課 長	小林 康弘
係 長	安井 聡博

### 6. 次第及び協議・調整事項

別紙の通り

酒井市長	1 開会（酒井市長挨拶）
	2 協議・調整事項について (1) 篠山市教育大綱の策定について
酒井市長	まとめていただいた意見について、それぞれより説明をお願いしたい。
小澤委員	———小澤委員提案——— 学力向上について、基礎基本には国語力や読解力が大切だと考えるので、読書タイムの定着を図っていききたい。また、自ら考えて自分の意見を言える子どもの育成に努める必要がある。 ふるさと教育・体験活動について、日本遺産のまち篠山の視点をもって、ふるさと教育を文化にしていききたい。また、地域の協力のもと、旧町単位で具体的な取り組みがなされてきているので、今以上に学校教育活動に取り入れていききたい。コミュニティ・スクールについては、活動をとおして地域のきずなを深める土台としたい。 子育てについては、保護者が孤立しないような地域のつながりが感じられる環境づくりが大切。訪問型病児保育の制度化も視野に入れてはどうか。 保幼小中高大の連携について、高校進学への連携を深めていくことができないか。大学生が関わっている事業が多いので、子どもたちがその中で活動できる場を多く設けることも大切だと思う。 食と農に関しては、地産地消を全面に出していききたい。
酒井市長	読書タイムについて、具体的にどう思われているのか。
小澤委員	単に時間を費やすのではなく、読んで習得したことを学習活動に活かせるようにしていく必要があると思う。
酒井市長	読書タイムの実施状況はどうなっているのか。
前川教育長	学校によって曜日や時間帯は異なるものの、全ての学校で設定している。自分の好きな本などを読むことで、読書の習慣付けを行っている。
酒井市長	高校進学への連携ということが挙げられているが。
小澤委員	私見になるが、特に今田地区は三田に近いことから、市内の高校か市外の高校かで悩まれる家庭も多い。中学校の進路指導等で、少しでも不安が解消できるように取り組むことも必要だと思う。
垣内委員	ふるさと教育のところで「学校の教育に取り入れる」とあるが、教師が教材化して教えていくということか。
小澤委員	教師の負担にもなるので、地域の方が関わっていくことも大切である。
酒井委員	———酒井委員提案——— 市長が示されている「市長の皆さん こんにちは」は大切だと感じている。海外から来る人に対しても、海外に出て行く場合であっても、いろいろな思いが込められている言葉ではないか。そういうことを意識する子どもの育成に努めたい。学力については、自己実現のための「学力」という視点に重きを置きたい。そこで提案するのが「塾の不要な篠山」のアピールである。例えば大阪市では、2学

<p>酒井市長</p> <p>酒井委員</p> <p>中村委員</p> <p>前川教育長</p>	<p>期の始業式を8月末から行っており、それが学力向上につながっている。市民に対して“本気度”を示していく必要があるのではないか。インパクトのある言葉で教育を語っていききたい。</p> <p>ふるさと教育については、英語が望ましいが、自分たちの地域の良さを外国の人に伝えられるようにしたい。例えば「能（春日能）」などは、良い題材だと思う。そのためには、総合的な学習の時間の活用方法を考えていく必要があると思うので、体験活動と連動して行っていききたい。学校現場だけが担うのではなく、コミュニティ・スクールなどをとおして、社会教育での学習成果を学校教育の現場に返していくことが大切である。</p> <p>コミュニティ・スクールについては、地域の活性化に力点を置きたい。そこから子どもたちの学びにつなげていける。</p> <p>食と農について、給食では地元野菜の活用が他市と比較して抜きん出ているものの、活用率が40%と言うだけでは、市民に分かりにくいと思うので、「地元野菜の活用率日本一」を掲げてはどうか。篠山ならではの特色ある給食を継続して提供していききたい。また、学校給食を高齢者に提供することで、子どもと高齢者のつながりを見出せないかと考えている。例えば学校内に高齢者の通所施設やリハビリ施設を設け、共に学ぶことで、高齢者は子どもの活力をもらい、子どもは高齢者の知恵をもらう、という運営スタイルも面白いと思う。</p> <p>生涯学習については、市民総かがりで行きと、ということを強調したい。</p> <p>ふるさと納税について、景品を以て納税を増やすのもひとつの方法だが、「全国の篠山ファンに篠山の子どもたちを応援してもらおう」ということに特化したテーマを設定してはどうかと考えている。</p> <p>「塾の不要」という表現が気になるのだが……。</p> <p>“学力は任せなさい”という意味合いであり、義務教育の段階はきっちり篠山市が責任を持つ、ことの延長線として表している。</p> <p>保護者としては、塾の必要ない自治体があれば嬉しいと感じる。</p> <p>——前川教育長提案——</p> <p>強調したいのは、大人や子どもの区別をせず「みんなで学んでいこう」という風土づくりである。そのためには、コミュニティ・スクールの定着を進めていく必要がある。学校にとっては、開かれた学校づくりや保護者の学力観、地域の活性化を見つめ直す機会となる。「地域文化磨き」という言葉で表しているように、子どもを考えることは地域を考えることであり、後継者の育成にもつながる。</p> <p>子育てできる環境については、8つの条件：①通勤、②通学、③通院、④通商、⑤通婚、⑥通信（情報）、⑦通貨、⑧通交（交通）を整えていく必要がある。子育ては生活の一部なので、ピンポイントで考えるよりも、「ふた葉プロジェクト」のように、網羅的に大きな視点で考えていく必要があると感じている。</p> <p>もう一点、「アイデンティティを築く地域主義」ということを提言したい。例えば、名産や名物、名所、名人など、篠山には“名”の付くお国自慢がある。ここにしかない、今しかない、これしかない、というものを焦点化したとき、生涯学習社会の視点による文化の香り高いまちづくりが見えてくる。そして、発展する</p>
--	---

	<p>ためには、女性が肯定するまちでないといけないと思う。篠山の教育では、このあたりを具体化していきたい。</p> <p>——中村委員提言——</p>
中村委員	<p>例えば、市長が示す「ヒーロー」のような、インパクトのあるPR要素があれば良いと思う。</p> <p>学力について、答えを導き出すプロセスと仕事をやり遂げるプロセスは同じだと思うので、「生き抜く力を身に付ける学力」という視点が大切だと思う。それは、大人も子どもも同じはずである。</p> <p>垣内委員のキーワード提言の中に「篠山を生涯で感じる教育」があり、私なりに考えると、「生涯 教育のまち篠山」とすれば良いのではないかと思った。</p> <p>酒井委員の示す「塾のない篠山」は良い発想だと思うので、学力については「全国学力調査の上位をめざすまち」をキーワードにしてはどうか。</p>
酒井市長	<p>食育については、「全国給食甲子園」をめざし、篠山を一気にPRしたいと思う。「中学生と高齢者大学が同じ校舎で学ぶ」ということは、高齢者大学に限らず良いと思う。同じ給食を食べることもできる。</p>
中村委員	<p>同じ校舎で学ぶとなれば、空き教室がないと聞いたことがある。</p>
酒井市長	<p>そういったことは、私も耳にする。コミュニティ・スクールは、本当は地域に浸透しているのか。知らない人は多いと思う。</p>
酒井委員	<p>コミュニティ・スクールは、「学校を手伝えばよい」と認識している人も多いと思うが、初めはそれでよいと思う。スクールプランの説明も進めており、ここ1～2年で変わっていくと期待している。</p>
酒井市長	<p>委員になれば意識も高まるが、やはり、学校から開いていかないと難しいと思う。学校給食甲子園は初めて聞いたが……。</p>
細見次長	<p>これまで、本選に残っていないが、今年もエントリーしている。</p>
酒井委員	<p>どのような点が、審査の基準となっているか。</p>
中村委員	<p>地場野菜を使った給食献立としている。今年は、大山地区の「とふめし」で出品している。</p>
酒井委員	<p>篠山東雲高等学校との連携を視野に入れると、良いPRにもなるのではないか。市民からすれば、何をしているのか分からないと思うので、そのあたりも課題である。これだけ地場野菜を使った給食を展開しているのだから、情報発信をしつかりとしていきたい。</p>
酒井市長	<p>篠山市の給食は美味しく、栄養価も高いと聞いているので、前向きに取り組んでいけるのではないか。</p> <p>——垣内委員提言——</p>
垣内委員	<p>教育大綱なので、あまり細かくするのはどうかとの思いから、「ふるさと教育」と「コミュニティ・スクール」、「様々な体験活動」と「生涯学習」、「安心して子育てできる環境」と「食と農」をひとつにまとめている。そのなかで、最も力を入れたいと思うは、「ふるさと教育」と「コミュニティ・スクール」である。ふるさと教育について、学校の中だけで教えていくと教師の負担にもなり、また、一方的な押し付けになることも考えられるので、コミュニティ・スクールと合体</p>

	<p>させて、地元の方が地域のことを教えるというかたちが望ましい。人（子ども）に教えることで自分の勉強にもなり、地域を再確認することで、活性化にもつなげていける。そのうえで、篠山らしいコミュニティ・スクールのあり方を、大綱に盛り込んでいきたい。</p> <p>———酒井市長提言———</p> <p>「ふるさと教育」と「地域に開かれた学校づくり」については、これまで提言いただいた内容と同じである。</p> <p>「自然とふれあう教育（学校にヒーローを！）」については、篠山小学校であれば「オオムラサキ」、城北畑小学校であれば「お苗菊」といったように、篠山らしさや自然を活かして各学校で取り組んでいる特色的な「ヒーロー」をシンボリ化していきたいと思う。</p> <p>ただし、学校では、所定のカリキュラムで手一杯だと聞いており、時間の確保は可能なのか。</p>
酒井市長	
細見次長	<p>地域や学校に応じた特色ある教育課程を編制する中で、今、一番に学校が利用しているのが「総合的な学習の時間」である。小学校3年生から6年生までが年間70時間（週2時間）、中学校1年生が50時間（週1.4時間：学期によって入れ替える）、中学校2年生から3年生までが年間70時間（週2時間）となっており、この時間数は、平成29年度までは変更されない。ただ、国では外国語活動の拡充が検討されているので、今後、総合的な学習の時間の枠組みは不明瞭である。【以下資料説明】</p>
酒井市長	特別活動とは、どのようなことをしているのか。
細見次長	入学式や卒業式、修学旅行などが該当する。平均すると、週1時間としているが、まとめて時間を使うこともある。
酒井市長	総合的な学習の時間のテーマは決まっているのか。
細見次長	資料に示しているのは、岡野小学校と篠山中学校の事例である。何をするかは、学校に任せている。また、大山小学校について、コミュニティ・スクールが2年目を迎えており、地域が関わりのなかでどのような活動をしているかをまとめている。
酒井市長	ふるさと教育は、総合的な学習の時間を使っているのか。
細見次長	道徳においても、できるだけ地域人材を取り上げ、先人に学ぶということにも力を入れているので、ふるさと教育として取り扱うこともある。また、特別活動の時間を使うこともある。
酒井市長	外国語活動（英語）の時間が増えると、どのように時間数が変わるのか。
細見次長	確定ではないが、国は、3、4年生で2時間程度、5、6年生で3時間程度、外国語活動が増えるとしているので、総合的な学習の時間が維持できるかどうか不透明である。
中村委員	岡野小学校の例の中で、例えば6年生で「戦争について」が取り上げられているが、それ以外のふるさと教育（例：篠山城）については、行われていないのか。
細見次長	化石体験活動にも取り組んでおり、また、篠山城のことは、篠山小学校で、自分たちがガイドとなり、学んだことを観光客に説明する場を設けたりして

酒井委員 細見次長	<p>いる。</p> <p>篠山市において、総授業時間数を増やすことは可能なのか。</p> <p>工夫次第で上回することは可能である。総合的な学習の時間については、特定の週にまとめ取りをしている学校もある。</p> <p>———全体協議———</p>
酒井市長	<p>出された意見を確認していきたい。「開かれた学校づくり」については、高齢者とともに学び給食を食べる機会をつくる。「食と農」については、篠山らしい給食献立づくり、地元野菜の使用率、などのPRとともに、学校給食甲子園にも取り組む。「ふるさと教育」については、篠山の良いところに着目し、いろいろな機会をとおり地域の人を活用して進めていく。「学力」については、読み・書き・計算（そろばん）・あのねちゃん、も良いキーワードだと思うが。</p>
垣内委員	<p>“あのねちゃん”というのは、教師に対するコミュニケーションでもあり、自分ひとりでは生きていけないので、「人と相談して解決していく力」として捉えてはどうか。そういった意味合いで使えないか。</p>
酒井委員	<p>学力の何をアピールするかを考えた場合、“先生あのね”は以前から取り組んできたことであり、まとめるにあたっては整理をする必要があると思う。</p>
中村委員	<p>小学校の生活ノートのように、中学校についても、生徒と教師でコミュニケーションが図れるノートがあればと思う。</p>
酒井委員	<p>そこまで具体的にできれば、問題等の早期発見にもつながるとは思うが、全てに教師の手が回っていない実態がある。その解決の一方策として、コミュニティ・スクールを位置付ける必要がある。</p>
細見次長	<p>中学校にも、1、2年生には生活ノートがある。3年生になると受験があるので、授業等で分からないことを書いてくるノートがある。ただ、空き時間が限られているので、月、水、金と火、木に分けて対応している教師もいる。</p>
酒井市長	<p>教師の負担を、少しは緩和できないものか。</p>
酒井委員	<p>子どもは、日々、変わっていくので、そういった毎日の積み重ねが大切である。一人の担任だけでは負担になるので、複数の教師での対応も考えていく必要はある。</p>
酒井市長	<p>悩みのある子もない子もいるので、柔軟な対応もできると思う。また、保護者等とのトラブルで苦しい立場に立たされる教師は多いのか。</p>
細見次長	<p>大抵の場合は、学校内で収まる。子どもの視点で対応が講じられれば、クレームになることはない。</p>
酒井市長 細見次長	<p>そういった苦情事案に対して、コミュニティ・スクールは有効だと聞いているが。昨年度、篠山中学校でもコミュニティ・スクールに取り組み、情報発信を効果的に行った。ケース会議において、学校教職員ではない外部の関係者が保護者を支援することで、改善に至った経緯がある。保護者対学校という構図が、保護者と地域全体という構図に変わること、良い成果が得られた。</p>
酒井市長 細見次長	<p>ケース会議は、どのようなメンバーで行われているのか。</p> <p>学校内での会議である。担任以外、例えば生徒指導担当が中心となって、専門家等にも集ってもらい、5人程度で保護者への対応を検討している。</p>

酒井市長 小澤委員	本日、出された意見について、それぞれどう思われたか確認したい。
酒井委員	ポイントとなることをしっかり発信していくことで、ふるさと教育やコミュニティ・スクールの具体的な取り組みにつなげていきたいと思う。
酒井市長 小林課長	「教育権」がどこに存在するかを考えたい。これまで学校教育は、国が決めたことに従ってきたが、地方分権が進む中で、地域が責任をもって子どもの教育を担うようになってきた。このことを、地域や市民の方に分かって欲しいし、同時に、教育の第一義的な責任は保護者にあることを踏まえた、篠山の教育でありたい。また、生涯を考える中では、体力という点にも留意したい。それと、篠山の伝統を活かした新しいもの、例えば、農業で言うと「次の特産品は何なのか」といったような、売り出していけるものがないといけない。教育にもアグレッシブ精神が必要だと思う。
酒井市長 前川教育長 中村委員	学力偏重では良くないと思う。体力、スポーツの視点は大切だと思う。体力が衰えると集中力も途絶えてしまう。それだけ、持久力をつけること、同じ体勢が保持できることは大切である。
酒井市長 細見次長	人間の一番の幸せは“健康”だと思う。他に意見は。教育が見えるようにしていくことを意識したい。
酒井委員	是非とも、空き教室があれば、高齢者大学を中学校で行いたい。それと、学校給食甲子園を目指したい。
中村委員	空き教室の現状は。特別教室を利用することは可能である。普通教室についても、篠山中学校は難しいが、他の中学校なら学級数が減っており余裕はある。篠山東中学校であれば、かなりの数が空いている。
酒井市長 中村委員	高齢者大学だけであれば、その都度、体育館等を開放すれば済むし、恒常的に高齢者の学ぶ場所を設定するのであれば、年間にわたり教室を確保する必要がある。そのあたりの整理が必要ではないか。
前川教育長	できれば、子どもたちが学ぶ隣で高齢者も学んでいる、同じ階段をともに行き来する、といった環境でありたい。
酒井市長 酒井委員	学校で高齢者は何を学ぶのか。高齢者大学でも、カリキュラムを組んで学んでいるので、黒板を使ってするような講座等であれば、教室が使える。もちろん、高齢者大学に限定しなくてもよい。様々な高齢者の学びも場があるので、移動教室のように、学校で行うのが効果的と思われるものから整理をすれば良いのではないか。
垣内委員	高齢者大学の講座を、あえて学校で学ぶことの意義はあるのか。家族の実態を考えた場合、高齢者が学んでいるところを子どもたちが目にする機会はほとんどない。ともに学ぶ時間を共有することで、生きることや老いることの姿を子どもたちに見せることが大切だと感じる。
	高齢者の方が学校に訪問する機会が増えるとなれば、篠山市独自の、他の自治体には例のないコミュニティ・スクールを創造することができるのではないか。コミュニティ・スクールの先進地であってよいと思う。生涯教育にもつながる。体力について、集中力で言うならば基礎体力だと思うし、スポーツで言うならば

	<p>文化の側面があると思うので、どちらを視点にするかを明確にしておく必要があると思う。特に、基礎体力であれば、ふた葉プロジェクトにあるように生活習慣にかかる内容をしっかり進めていけばよい。</p> <p>“新しいもの”については、恐竜化石やホッケーの振興、クリンソウなどが挙げられるのではないかな。</p> <p>キーワード提言については、大綱をつくる場合のイメージ表現として端的にまとめたものである。</p>
酒井市長 酒井委員	<p>コミュニティ・スクールをすることで、学校の負担は増えるのか。</p> <p>最初はたいへんだが、軌道に乗れば、学校ですべきこと、家庭ですべきこと、地域ですべきこと、の整理ができ、学校現場の負担が減ると言われている。</p>
酒井市長  酒井委員	<p>学校で手に負えない問題が出てきた場合、教師の負担は相当なものと感じている。昔は、学校の考えや方針に異を唱える保護者はほとんどなかったが、今はそうではない。学校で抱え込まないような体制づくりが重要である。</p> <p>学校の現状を考えると、地域全体で子どもを育てていくという視点が求められていると思う。「日本ほど教師を粗末にする国はない」などと言われることもある。</p>
酒井市長 酒井委員	<p>コミュニティ・スクールをはじめ、地域力を活かしていきたい。</p> <p>コミュニティ・スクールに関して、平成25年度の資料によれば、兵庫県の実施率は7.3%と低く、一番多いところは、山口県で68.4%である。篠山市のように市を挙げてコミュニティ・スクールに取り組もうとしているところは、全国でも稀である。“篠山らしいコミュニティ・スクール”ということをお大綱にしっかり謳っていきたい。</p>
酒井市長 垣内委員	<p>基礎体力とスポーツについては、両方に関わる内容だと思うが……。</p> <p>スポーツの苦手な子どももいるので、スポーツの成績を良くしようという考えではない。</p>
酒井市長  酒井委員	<p>スポーツで良い成績を収めることは、それで良いとして、確かにそのような子どもばかりではない。</p> <p>今日は、具体的な意見を出してもらったので、整理をして、第3回に臨みたいと思う。他に意見等は……。</p>
	<p>子どもの時に「遊ぶ」ことは大切だと思う。体力の項目に、そのことも盛り込んでいきたい。</p> <p>3 その他</p> <p>(1) 第3回総合教育会議の日程について 平成27年10月9日(金) 15時～</p>